

## たくましい社会性に関する研究 (2)

○山岸明子・二宮克美・首藤敏元

(順天堂医療短大) (愛知学院大学) (埼玉大学)

### 【目的】

本研究(2)では、(1)で述べたたくましい社会性の発達を理論化していると思われるSelmanの対人的交渉方略 (Interpersonal Negotiation Strategy) 理論に基づき、1)方略の発達レベル 2)方略のスタイルの2つの観点を考慮して作成された質問項目を使って、「他者との関係を築く能力」及び「自己の要求を実現する能力」との関連を検討する。

【方法】(質問項目) (a)対人的交渉方略 2つの対人的葛藤場面において、葛藤をどう解決するかに関し設けられた9-10項目 [Selman理論の1)他者変化志向 (各レベル0,1,2のもの)、2)自己変化志向 (各レベル0,1,2のもの)、3)協調的志向 (レベル3)、更に4)権威志向、5)じゃんけんによる解決] について、それぞれ「自分だったらするかどうか」を4件法で答えさせる。(b)他者との関係を築く能力の感情的側面として「共感性」、能力の自己認知として「向社会的コンピテンス」(cf.研究1)、(c)自己の要求を実現する能力の感情的側面として「自律感」5項目 (ex.「何をしたいか、何をするかは自分で決める」)、能力の自己認知として「自己効力感」7項目 (ex.「～の時うまくやっていた自信がある」) について5件法で答え

を求める。

〈被験者〉〈調査時期・方法〉研究1と同じ。

### 【結果と考察】

(1)対人的葛藤を解決する方略として、男子は他者を変化させる方法 (及びじゃんけん 5.38(4.60) > 4.60 (1.80)  $p < .001$ ) が多く、女子は自分を変化させることが多い (cf.表1)。発達レベルに関しては0、1、2では性差がないが、協調的なレベル3は女子が多い (cf.表1)。女子の方が男子より発達レベルが高く、自己変化志向が多いという先行研究と一致する結果だが、本研究ではスタイルの違いの方が大きい。

(2) (b)「共感性」「向社会的コンピテンス」(c)「自律感」「自己効力感」との相関係数は表2の通り。男子では、発達レベルの上昇と共にプラスの相関値が上がり、レベル3との相関が一番高くなっている。交渉方略の発達レベルと他者との関係を築く能力、自己の要求を実現する能力は弱いに関連があること、交渉方略のスタイル (自己を主張するか、相手に合わせるか) との関連より関連性があることが示されている。一方女子においては (b)とレベル1以上にプラスの相関、(c)とレベル0間にマイナスの相関が見られ、また方略のスタイルによる違いがいくらか見られるなど、傾向がいくらか異なっている。

表1 対人的交渉方略における性差 [平均値 (標準偏差)]

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3 (協調的志向)	他者変化	自己変化
男子	8.40(2.01)	10.61(1.85)	11.50(2.18)	8.56(2.18)	17.10(3.33)	13.38(3.61)
女子	8.10(2.01)	10.81(1.79)	11.37(1.97)	9.43(1.68)	15.42(3.16)	14.86(3.16)
t検定				***	***	***

[本研究は日本生命財団による特別研究助成「教育力研究」(代表者:祖父江孝男)の一部である。]

表2 対人的交渉方略と4尺度間の相関係数 (左側 男子、右側 女子) \*  $P < .05$  \*\*  $P < .01$  \*\*\*  $P < .001$

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	他者変化	自己変化	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	他者変化	自己変化
(b) 共感性	-.129	.091	.180**	.276***	-.039	.102	-.062	.259***	.220**	.181*	.171*	.099
向社会的コンピテンス	-.287***	.144*	.269***	.309***	.021	.061	-.157*	.270***	.180*	.259*	.146*	.006
(c) 自律感	-.150*	.062	.183**	.184**	.085	-.008	-.218**	.014	.021	.052	.030	-.146*
自己効力感	-.092	.057	.180**	.216**	.130	.013	-.212**	.071	.066	.165*	.084	-.133